

(別紙様式第5号)

6次産業化推進整備事業(農業主導タイプ)点検評価書(平成29年度分)

地方農政局等名
東北農政局

6次産業化法人の名称	設立年月日	代表者名	構成員数
(有)まごころ農場	平成8年1月12日	斎藤 靖彦	2人
主たる事務所の住所	青森県弘前市大字薬師堂字熊本16	TEL FAX	セキュリティに配慮し、非公開とします。

1 事業の実施状況に対する所見

[取組状況について]

生果のミニトマトについて、春作は、燃料費の圧縮及び生育適期の栽培を目的に定植時期を最適化した結果、増収となった。夏秋作は、日照不足により生育が悪く大幅な減収となった。加工原料の生産は、露地栽培と簡易雨よけ栽培の併用により増収した。なお、露地栽培は、緩やかな傾斜地に栽培したこともあり、排水不良による生育障害が少ない結果となった。今後、傾斜地での栽培を増やすことを考えている。

加工品については、商品開発が順調に進んでおり、昨年から営業を強化したことにより販売先が増えている。量販店向けのカatalogギフトが継続的に伸びており、さらに強化していきたい。

[経営状況、事業による変化等について]

経営状況について、加工部門の売上げは伸びているが、トマト部門の夏秋作の収量減、収穫時期の遅れによる燃料費の大幅な増加となり、売上げの減少、経費の増加となった。加工部門と生産部門を同時に進めることで、部門の業績不振を補える効果が実証できた。

2 成果目標の達成状況に対する所見

項目	所見
(所得の向上に関する目標) 売上高の増加	生果のミニトマトについて、春作は、収量が増加したが価格が低迷し、売上高は横ばいとなった。秋作は、生育遅れによる収量減と単価安により、通期でみて大幅な売上げ減となった。加工品について、1次加工のピューレは、原料生産が安定したことにより前年比で生産が約1割増加し、それに伴い売上げも増加した。レトルトカレーは、カATALOGギフトのレパトリーが増えたことにより売上げが増加した。 前年比で、生果部門では売上げ減となったものの、加工部門では大幅に増加し、全体として、売上高は拡大した。
(雇用の創出に関する目標) 雇用の増加	加工品の増産により雇用者(人日)は増加したが、わずかながら目標に達しなかった。
(地域の活性化に関する目標) 〔耕作放棄地の活用〕	目標は達成している。

3 施設等の利用状況についての所見

[農畜産物加工施設の利用状況について]

施設の稼働日数は95%以上となっており、重量物である1次加工品の加工量は前年度より多くなったものの、利用計画目標に届かなかった。

4 6次産業化法人と連携法人の取引状況についての所見

該当なし

5 改善措置等に対する所見及び指導内容

(1)成果目標について

売上高については、定期的な価格変動に対応した栽培時期の模索や栽培面積の拡大による加工品の売上増を検討している。また、雇用については、労働時間を従業員に合わせるなど、労働環境の改善により人手不足を克服しようとしている。これらの目標達成に向けた取り組みを行うことから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。

(2)施設等の利用状況について

昨年の課題であった原料の確保については改善したが、目標達成に向け、さらに栽培面積の拡大及び増産を検討している。また、複数の製品を製造することを考えていることから、引き続き自己点検報告書の提出を求めるものとする。